



白石達氏
大林組取締役社長

リレートーク



山本 裕二氏
ヒューロンコンサルティンググループ
取締役社長兼CEO

#148

白鳥栄一さんを偲ぶ

1998年に63歳の若さで亡くなられた白鳥栄一さんが、今年7月6日に「公認会計士の日」大賞の特別名誉賞を、日本公認会計士協会より受賞されました。特別名誉賞の選定理由は、生前、日本人として初めて国際会計基準委員会議長に就任し、会計基準の国際的な調和・統一に貢献されたためでした。私は、弟子の一人として、この受賞に大変感激しました。白鳥さんは39歳の若さでアーサーアンダーセンの日本代表に就任し、また大学で教鞭を執られ、政府税制調査会専門委員にも国際的な会計の専門家として就任されていました。

白鳥さんが国際会計基準委員会議長に就任された1993年は、日本において国際会計基準は経済界から全く認知されず、行政からも無視されている状況でした。日本企業の真の意味での国際化のため、白鳥さんは孤軍奮闘し、国際会計基準の早期導入を推進されており、日本企業の国際化、あるいは国際的な市場で競争優位性を確保する意味で、国際会計基準の早期導入は大変重要であると説かれていました。

白鳥さん亡き後、2000年頃に、いわゆる、「レジェンド問題」が発生しました。日本基準で作成した監査済の英文財務諸表には必ず注意喚起文言（米国会計基準や国際会計基準で作成したものと誤認されるリスクを軽減する文言）が必要とされたのです。すなわち、日本の会計基準は、国際的には信用されていなかったのです。国際的に業績を立派に挙げている日本企業にとって、この「レジェンド文言」はあまりにも屈辱的なものでした。

そして時代の流れは、会計基準の統一化を要求し、欧米各国は2002年に早くも統一化を目指すことで一致しました。腰の重い日本は、ようやく2007年に統一化に向けて舵を切り、早くて2010年、遅くて2016年には国際会計基準の導入が予定されることとなりました。白鳥さんが1990年代から国際会計基準の早期導入を推進して以来、約20年の歳月を要して、白鳥さんの努力がようやく結実することになりました。このあまりに世界の流れから遅れている日本に、私は正直憂いを隠せません。

次回は 吉田 雅俊氏(日税ビジネスサービス 取締役社長) にご登場いただきます。